

## 報 告

英国で認定山岳医ライセンスを取得して

大城和恵 心臓血管センター北海道大野病院循環器内科・山岳外来



2009年11月、私は、国際山岳医取得コース Diploma in Mountain Medicine を受講しに英国のはずれ、Wales に赴いた。お決まりの雨と風、訛りの強いWales 英語、日本で言えば国立登山研修所にあたるような山岳トレーニングセンター、そこで講習が始まった。この時、本コースの最終責任者である、UIAA Medcom (国際山岳連盟医療委員会) vice president Dr David Hillebrandt と ICAR Medcom (国際山岳救助連絡協議会医療部会) vice president Dr John Ellerton に初めて会った。彼らは2010年6月に現コースを改訂し、精力的に山岳医療の水準と質の向上を図る指導者である。

歴史的には1990年代に入り、欧州では、個人的な経験論で発展してきた山岳医療全体も、エビデンス、コンセンサスを得られるようになり、山岳救助実践が科学へと変革を示した。1997年スイスにて、ISMM (国際登山医学会)、UIAA-MedCom・ICAR が同時開催され、UIAA/ISMM/ICAR で山岳医療の国際コースの構築を合意、1998年「国際認定山岳医制度 International Diploma in Mountain Medicine (DiMM)」が正式に発足したのだ。

現在オーストリア、ドイツ、英国、フランス、イタリア、スペイン、スイス、日本の8か国でコースを設けており、数年以内に、カナダ・アメリカ合衆国でも開講予定である。

英国の制度は2002年に発足した。英国コースは1週間を4期行い、Wales、スコットランド、スイスで講習と実技を実施した。スキルテスト、論文提出、山行歴、山岳医療活動を総合的に評価され、2010年9月資格を取得した。申請書類を送り、認定証は Dr David Hillebrandt の手紙とともに、エアメールで届いた。Dr David Hillebrandt の計らいか、私の番号は英国の国際山岳認定医 No. 100 であった。手紙には、日本から受講したことへの労いと、これから発展する日本制度へのエールが記されていた。

英国講習は全て英語で行われた。私は不得手な英語に、大事な会話やポイントをいくつも逃しているのだろう、といつも残念な気持ちがつきまどっていた。しかし、肌で感じた欧州の山岳医療、講師の人柄、熱意、知識への探究心、受講生のエネルギーは、言葉の壁を越え、私を刺激し、これから目指すべきハードルを明らかに高めてくれた。私が英国で実感した事、取得できた事は、現在の私の大きな原動力となっている。受講までの経緯、受講の様子、取得後が本当の私の勉強のはじまりとなった様子を、紹介させていただく。

長野県出身、日本医学部大学卒業、雪を求めて北海道にて奉職。